

Amadeus Heutling

アマデウス・ホイトリング 第1ヴァイオリン



1984—現在 ベルリン・フィル正団員
1999—現在 ドイツ・オーケストラ協会代議員
1989—2001 ホイトリング弦楽四重奏団のリーダー
1990—2000 ベルリン芸術大学講師

両親ともにヴァイオリニストだったこともあり、ヴァイオリンに興味を持ち、学ぶようになった。父親であるヴェルナー・ホイトリングは、非常に著名な音楽家で、父およびハノーファー（ドイツ）でアンドレ・ゲルトナーに師事。ドイツ国費で米国留学し、ボストンでドロシー・ディレイに師事。1984年にベルリン・フィルハーモニーに入団してからは、教育活動にも熱心に取り組み、子どもや若手演奏家の育成に力を入れている。1990-2000年にかけてベルリン芸術大学の講師も務め、北ドイツのシュレスヴィヒ=ホルシュタイン国際音楽祭、ジュネス・ミュージカーレ（国際ユース・オーケストラ）、ドイツ連邦青少年管弦楽団でも若手音楽家の指導をしている。ソリストや室内楽奏者として積極的に活動するかたわら、ベルリン・フィルの教育プログラムにも定期的に参加。様々なベルリン・フィルの室内楽グループにヴィオラ奏者としても参加している。



カルテット演奏者と玉川とのつながり

アマデウス・ホイトリング氏は、1998年に玉川大学文学部芸術学科でマスタークラスを指導。玉川教育を高く評価し、その後も、ベルリン・フィルやナイジェル・ケネディ(2001)などの著名な演奏家との来日公演の度に、来園。未来を創っていく子ども・若者の教育に並々ならぬ情熱を傾けている。

Raimar Orlovsky

ライマー・オルロフスキー 第2ヴァイオリン



1991—現在 ベルリン・フィル正団員

所属活動団体：

- ベルリン・バロック・ゾリステン
- コンチェルト・メランテ
(ベルリン・フィルの古楽器アンサンブル)
- ベルリン・フィルハーモニー・プラームス・アンサンブル

4歳でヴァイオリンを始め、4人兄弟のうち2人が音楽家になるという、音楽の才能溢れる家族の中で育つ。ヘルベルト・コロスキー、ヴェルナー・ホイトリング（アマデウス氏の父）、ベルリン・フィルのコンサートマスターだったトーマス・ブランデイス、ヴァルター・フォルヒェルトに師事。ベルリン・フィルへの入団以前は、シュトゥットガルト・バッハ・コレギウムやヨーロッパ室内管弦楽団など、様々なアンサンブルで演奏。1993-2002年まで、ベルリン・アポス四重奏団のメンバーとして活動。もっぱら17世紀・18世紀の音楽（バロック音楽から古典派音楽）のみを演奏するために、1995年、ベルリン・フィルのメンバーでベルリン・バロック・ゾリステンを設立。また、古楽器で演奏するコンチェルト・メランテの活動では、バロック・ヴァイオリンで古楽（古典派以前の西洋音楽）を演奏している。古楽器奏法の経験を若手音楽家達に伝えていくために、1993年から、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーをはじめとして、夏季音楽アカデミーや国際ユース・オーケストラなどでも講師を務めている。さらには音楽学者としての業績も評価されており、バロック時代の作曲家達の失われた作品、とりわけゲオルク・フィーリップ・テレマンの作品を再発見し、校訂している。時間のある時には、色々な趣味を楽しんでいる。ゴルフやワインづくりはリラックスできる趣味として気に入っている。愛器は、1706年にミラノでカルロ・ジュゼッペ・テストーレによって作られたヴァイオリンである。

ライマー・オルロフスキー氏は、2013年度の教育プログラムから参加。2014年、2016年のベルリン・バロック・ゾリステンの来日公演（サントリーホールなど）の際にも、多忙なスケジュールを割いて、玉川の子ども達と学生にメッセージを書き送っている。

Berlin Philharmonic Orchestra Members

Matthew Hunter

マシュー・ハンター

ヴィオラ



- 1986 ギー国際ヴィオラ・コンテストにて優勝
- 1996—現在 ベルリン・フィル正団員
- 1998 マサチューセッツ大学よりCitation of Excellence 賞受賞
- 1991—1995 カナダ国立芸術センター・オーケストラの次席ヴィオラ
- 1999—2005 五人協議会 理事

所属活動団体：

- ・ベルリン・フィルハーモニー・ブラームス・アンサンブル
- ・ベルリン・フィルハーモニー・ストラディヴァリウス・ゾリステン
- ・ベルリン・フィルハーモニー弦楽六重奏団

7歳から音楽を学ぶ。ジュリアン・オレフスキー、ローマン・トーテンベルグ(カール・フレッシュの弟子)、マイケル・ツリー、ハイメ・ラレードに師事。1985年、米国シンシナティの音楽大学にて、川崎雅夫のアシスタントをする。ダートマス大学で哲学の学士号と音楽芸術の修士号を修める。ヴァイオリニストとしてのキャリアで研鑽を積んできたが、26歳の時、ダークチョコレートのようなヴィオラの旋律に魅了され、ヴィオラに転向。1998年に、ギー国際ヴィオラコンクールで優勝。カナダ国立芸術センター管弦楽団の次席ヴィオラ奏者を経て、ベルリン・フィルに入団。ギターでマーラーの交響曲第7番を演奏したり、ベルリン・フィルハーモニー・ストラディヴァリウス・ゾリステンのような室内楽団でも演奏する。2003年より、ベルリンのハンズ・アイスラー音楽大学で教えている。



マシュー・ハンター氏は、2011年度の教育プログラムから参加。2013年6月にストラディヴァリウス・サミット・コンサート(サントリーホールなど)で来日した際、また2016年の来日公演でも多忙なスケジュールを割いて、玉川の子供達と学生にメッセージを書き送っている。

Nikolaus Römisch

ニコラウス・レーミッシュ

チェロ



- 2000—現在 ベルリン・フィル正団員
- 2005—五人協議会 理事

所属活動団体：

- ・12人のチェリストたち
- ・フィルハーモニア・ピアノ三重奏団

5歳の時、10歳年上の女の子がチェロを弾いている姿を見て、自分もチェロを弾きたいと思ったことが、チェロとの出会い。チェロをラインヒルト・エールミュラー、ディートマール・シャルケ、ヴォルフガング・ベトヒャー、イヴァン・モニゲッティに師事。1986年から1990年までドイツ連邦青少年管弦楽団、1990年から1996年までEUユース・オーケストラで演奏し、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団と契約。その後、2000年に子どもの頃からの夢だったベルリン・フィルハーモニーに入団、《ベルリン・フィルの12人のチェリストたち》の一員でもある。1998年には、ドイツ音楽評議会の「若き芸術家のコンサート」にも選出。ベルリン・フィルのサッカーチームのメンバーでもある。他にも、ダイビングやスカッシュなど、スポーツの趣味も多彩。



ニコラウス・レーミッシュ氏は、2011年度の教育プログラムに参加。育児休暇のため、2013年度は参加できなかったが、2016年のベルリン・フィルやフィルハーモニア・ピアノ三重奏団の来日公演の際には、他のメンバーと一緒に玉川の子供達と学生にメッセージを書き送っている。